

関係するところざし読本の資料 「至誠の人 尾高惇忠」



読み物資料等の内容

日本で初めての大規模な機械式製糸工場が富岡製紙場です。その初代工場長は深谷市出身の尾高惇忠です。フランス人がこの大工場建設を指導していたため、異国人へのおそれと不安が地元の人たちの間で高まりました。工場長の惇忠は命令で人々を従わせるのではなく、相手の意見や考え方を聞き、ていねいに説明をして不安を解消しました。今度は「工場では若い娘の生き血を取る」といううわさが広まり、工場で働く女性（工女）が集まりません。うわさを消すために、工場長自ら自分の最愛の娘を工女とする決断をします。この決断でうわさは消え、工女の希望者が増えました。工場長の責任と地元の人や最愛の娘のことを考える尾高惇忠という人はどんな人だと思いますか。

授業の様子



児童の感想



誠実であるために大切なことは「やさしさ」と「思いやり」だと思います。ぼくは困っている人を助けてあげられる尾高惇忠さんになりたいです。

尾高惇忠さんは、とてもまじめで、とてもやさしい人だとわかりました。惇忠さんの娘“ゆう”さんも自分から工女になると言ったのはすごいと思いました。



私が迷ったときに助けてくれたり、何でも相談ののってくれたりするととてもやさしい人は尾高惇忠さんのように誠実な人だと思います。私も人を助けたり、相談ののってあげたりしたいです。

尾高惇忠さんは自分のことよりも人のことや将来のことを考えていることがわかりました。私も惇忠さんのように誠実な人になりたいです。



授業を参観した
教員の感想



授業のはじめでは、尾高惇忠さんと渋沢栄一翁の写真を使って、深谷出身の2人の紹介と本日11月11日「語らいの日」の紹介をされていました。

5年1組のみなさんはとても静かに先生のお話を集中して聞いていました。学級全員での話し合いの場面では多数の児童が自分の意見を発表していました。尾高惇忠さんがなにゆえに「至誠の人」であるのかということをよく理解し、「惇忠さんのような誠実な人に自分もなりたい」という感想がふり返りで多く見られました。